新しい地方経済・生活環境創生交付金
（第２世代交付金）事業
効果検証

＜令和７年度＞

総合政策部企画振興課

新しい地方経済・生活環境創生交付金（第２世代交付金）事業の効果検証

産官学金労言など多様な主体が積極的に参画し、地域全体で、持続可能で魅力的な地域の共創に向けて行われる、地方公共団体の自主性と創意工夫に基づいた地方創生に資する地域の独自の取組を支援することを目的に、国が交付するもの。

１．未来を担うひとづくり推進事業

（１）事業概要

よりよい未来の実現を担う若者たちを中心とした幅広い世代の市民が、ふるさと井原の「もの」「ひと」「しごと」に出逢い、それらの魅力や課題を見出しつつ、地域の魅力拡大や課題解決に積極的に参画する場を設定することで、『まちづくり』と『ひとづくり』を自分事としてとらえて積極的に関わろうとする意識と実践力を醸成し、ふるさと井原を自らの活躍の場として選び、自分らしさを発揮しながらよりよい未来を自らの手で創り出そうとする高い志と熱い想いをもった〈井原“志”民〉の育成と〈志縁コミュニティ〉の形成を図る。

（２）事 業 費（国補助率１／２）

１４，２００，０００円（うち、交付対象事業費 14,200,000 円）

（３）事業実績

〇ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業（委託料 12,200,000 円）

柱１：ひとづくりのまち「井原」の発信

①「井原市ひとづくり推進本部」及び「井原市ひとづくり実行委員会」の設置・開催

・井原市ひとづくり推進本部（１回開催）

・井原市ひとづくり実行委員会（３回開催、書面開催含む）

②ひとづくりアドバイザーの委嘱及び招聘しての研修会等の開催

・井原市ひとづくりアドバイザー9 名(All HEROS 合同会社代表　　中山芳一氏　外 8 名）

・井原市カリキュラム・マネジメント研修会、井原“志”民塾、各学校園研修会等に招聘

③ひとづくり事業の周知・理解促進及び資質・能力向上に向けた取組の促進を図るため、まち＆ひとづくりフェスタやひとづくり懇談会等を開催

・井原市まち＆ひとづくりフェスタ（兼井原市ひとづくりネットワーク懇談会）

日　時　R8.2.1（日）13:00～16:00

会　場　芳井生涯学習センター　ホール等

参加者　235 名（小中高生 63 名含む）







④「井原“志”民力」の実態を把握し資質能力向上への取組に活かすため、市内全小中高生を対象にアンケート調査を実施

⑤夢＆志づくり応援 Laboratory『ゆめここ☆ラボ＠井原～』の実施

◇井原“志”民塾・公開講座等（リアル 2 回、オンライン 2 回、参加者延べ 181 名）



◇中高生を中心とした井原市公認シアワセ未来探究クラブ『Team 夢源』の運営

・夢源 Makers（中高生）…R6 年度末現在登録者数 6 名

・夢源 Supporters（大学生・一般）…R6 年度末現在登録者数 13 名



◇コノユビトマレ合宿

・R7.6.7（土）～8（日）星の郷ふれあいセンター　参加者 31 名

・R7.9.13（土）～14（日）ユースセンターいばら、星の郷ふれあいセンター外　参加者 25 名



◇ふるさと井原“夢＆志”アクション助成

・中学生 1 組、高校生 8 組、一般 3 組、計 12 組の申請あり

◇“夢＆志”みんなの未来イロドリ交流会

・R7.7.27（日）13:00～16:30　アクティブライフ井原　参加者 32 名



◇“夢＆志”未来イロドリ交縁会

・R8.3.8（日）13:00～16:30　アクティブライフ井原　参加者 46 名

＊ふるさと井原“夢＆志”アクション助成報告会を兼ねる



◇『ユースセンターいばら』

・地域おこし協力隊（井原市ひとづくりコーディネーター）事務所を開放する形で中学生から若手社会人を対象に若者のサードプレイスを開設

柱２：社会に開かれた教育課程の実現

①ふるさと教育・起業家教育の視点を取り入れたカリキュラム・マネジメントの促進に向けた研修会［共学共創ラボ］の開催（1 回開催、参加者 50 名）

＊岡山県教育委員会主催「おかやま学びたい賞」に学習活動を出品

⇒審査観点別特別賞　中学校の部『巻き込み賞』美星中学校・星の郷ご飯チーム

②「ワーク＆ライフ職場体験」の実施

・事業所に出向いての職場体験（対象：市内５中学校の 2 年生、受入事業所：延べ 128 事業者）

③ワーク＆ライフ交流会（対象：市内５中学校１年生もしくは 2 年生、地域キャスト延べ 49 名参加）

柱３：地域社会・企業との連携

①地域と学校の連携・協働によるひとづくりネットワーク構築事業

・井原市ひとづくりネットワーク運営協議会の開催（2 回開催、参加者延べ 144 名）

・コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）と一体的に推進

⇒市内全小中高に学校運営協議会を設置

②ひとづくりサポート団体及び地域キャスト登録事業

・地域キャストグループ『井原 Lovers』：登録者数（R7 年度末現在）：106 名

③地元企業・事業所との連携による地場産業魅力発信プログラムの開発・導入

◇井原おしごと体験フェス

・R7.5.31（土）芳井生涯学習センター

・参加：250 組・750 名以上

・出展（店）：35 事業所・42 ブース　※飲食ブースを含む



◇井原おしごと探検ツアー

・R7.7.30（水）シーピー化成株式会社、タカヤ株式会社

・参加：小学生及び保護者 17 組・計 42 名



柱４：高等学校及び大学との連携

①市内３高校との連携促進・魅力化支援

◇主な活動



・井原市立高校総合的な探究の時間等の支援

⇒井原市ひとづくりコーディネーター派遣

・県立井原高等学校総合的な探究の時間等の支援

⇒1 年生『交流ワークショップ』

（企画・進行、地域キャスト選定・派遣 43 名）

②大学との連携促進

・岡山大学教養科目『地域の未来デザイン』開講支援

⇒PBL 編（受講生 79 名）：学生が井原市を題材に地域創生を学び、井原市の魅力拡大や課題解決策の案をまとめて企画プレゼンテーションを実施

⇒実践編（受講生 17 名）：岡山大学他 5 国立大学学生が本市を訪れ、市内のフィールドワーク、市民や県立井原高校生との交流等を実施

柱５：家庭教育の支援

・ライフステージに応じた課題別子育て講座、子育てサポーターの養成・活動支援、次世代の親となる中高生のふれあい交流事業を実施

柱６：読書活動の推進

・絵本ガイドブックの作成、絵本作り講座及び読み聞かせ講座を実施

○いばら就職支援事業（委託料 2,000,000 円）

①高校生向けのインターンシップの開催

・インターンシップ（夏:8 月）の実施（受入事業者 15 社、参加生徒 24 名）

・インターンシップ（春:3 月）の実施（受入事業者 14 社、参加生徒 26 名）





②高校生向けの合同企業説明会の開催

と　　き　　R8.1.30（金）

と こ ろ　　地場産業振興センター

事業者数　　24 社

生 徒 数　　200 名





③ガイドブックの作成（200 部）　※令和 5 年度より生徒へはデータ提供



（４）重要業績評価指標（ＫＰＩ）

	事業開始前 令和3年度	令和4年度 （1年目）	令和5年度 （2年目）	令和6年度 （3年目）	令和7年度 （4年目）	令和8年度 （5年目）
社会増減数（転入－転出）【人】	-50	（目標）-48	（目標）-46	（目標）-44	（目標）-42	（目標）-40
		（実績）-158	（実績）-158	（実績）-179	（実績）-183	
井原市や住んでいる地域のことが好きな生徒児童の割合（生徒児童の郷土愛）【%】	68.49	（目標）69.69	（目標）70.89	（目標）72.09	（目標）73.29	（目標）74.49
		（実績）79.53	（実績）76.60	（実績）68.32	（実績）63.59	
日々の生活に幸せを感じている生徒児童の割合（生徒児童の幸福度）【%】	72.17	（目標）73.17	（目標）74.17	（目標）75.17	（目標）76.17	（目標）77.17
		（実績）85.38	（実績）87.28	（実績）75.26	（実績）77.01	
いばら就職支援事業（合同企業説明会）における市内３高校の在籍生徒数に対する参加申込生徒数の割合（市内事業所への関心度）【%】	13.69	（目標）14.69	（目標）15.69	（目標）16.69	（目標）17.69	（目標）18.69
		（実績）14.83	（実績）26.22	（実績）39.10	（実績）31.01	

（５）実績値（令和７年度）の評価

「ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業」においては、『“夢＆志”あふれるウェルビーイングなひとづくり』をテーマに諸事業を展開したことで、“夢＆志”アクション助成への申請数が 3 倍に増加したことや生徒児童の幸福度の向上につながった。一方、生徒児童の郷土愛については、減少傾向となっており、魅力的な「もの・ひと・しごと」との出逢いや関わり方について新たな仕掛けが必要な時期が来ていると考える。本市のひとづくりを新たな教育モデルととらえ、これまで以上に「井原”志”民力」の向上を意識した取組を拡充することで、自分とふるさと井原を愛し、よりよい未来のために実行する人財の育成ならびに子どもたちのウェルビーイングの向上につなげる取組を推進していく。

「いばら就職支援事業」においては、在籍生徒数が減少する中、合同企業説明会の開催日程を平日の開催とし、市内３高校の授業での取組としたことで、学校のニーズと合致し、生徒が参加しやすい環境が整備され、目標値を達成することができた。

（６）元気いばら創生戦略会議（外部有識者等）の評価

「ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業」においては、『幸福度』の目標は達成しているものの、『社会増減数』や『郷土愛』は、一朝一夕に改善するものではないことから、今後も多くの市民を巻き込みながら、まちづくりの視点を含め一体的な取組を行うとともに、児童

生徒のウェルビーイングの向上を図り、満足度や肯定感を高めいく必要がある。

また、「いばら就職支援事業」においては、令和７年度の目標値を達成しており、引き続き合同企業説明会については、事業者と学校双方と調整ながら実施することが望ましいと考える。

２．広域連携拠点施設（熱利用施設）整備事業

（１）事業概要

笠岡市、井原市、浅口市、里庄町及び矢掛町が岡山県西部衛生施設組合の広域連携拠点施設（熱利用施設）を整備し、３市２町が人口減少や高齢化率の高まりによって抱える４つの課題（健康寿命の延伸、新たなコミュニティの形成、交流人口の拡大、学校施設の老朽化と水泳授業における課題）を解決し、地域の魅力を高める。

また、自治体の枠を越えた新たなコミュニティの形成や住民間の交流を活発化することで地方創生として目指す「生涯活躍のまち」を実現し、圏域への人の流れを創出する。

（２）事 業 費（国補助率１／２）

１，０５９，４１９，０００円（うち、交付対象事業費 1,059,413,000 円）

【交付対象事業費の内訳】

井原市：279,473 千円、笠岡市：351,090 千円、浅口市：254,259 千円、
里庄町：83,058 千円、矢掛町：91,533 千円

（３）事業実績

本事業は、岡山県西部衛生施設組合が「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律（PFI 法）」に準じて設計・施工・維持管理・運営業務一括発注方式（DBO 方式）により実施している。令和７年度は、本事業の事業者である特別目的会社「ホシノＷＡ株式会社」が、施設整備計画の２年目として当該施設の建設工事及び工事監理業務を行った。

また、施設整備に関する周辺住民への説明会を開催し、当該施設の利用促進に向けた機運醸成にもつなげることができた。

【工事内容】建築工事、電気設備工事、空調換気設備工事、給排水衛生設備工事、
エレベーター設備工事、その他設備工事一式の一部を実施し、躯体立上げ・屋根葺きまで完成（５５％）。残りについては令和８年度中に完成予定。

【整備イメージ】



（４）重要業績評価指標（ＫＰＩ）

	事業開始前 令和5年度	令和6年度 （1年目）	令和7年度 （2年目）	令和8年度 （3年目）	令和9年度 （4年目）	令和10年度 （5年目）
3市2町のUIJターン者数【人】	525	（目標）530	（目標）536	（目標）555	（目標）576	（目標）597
		（実績）437	（実績）457	（実績）	（実績）	（実績）
3市2町における健活宣言企業数【社】	160	（目標）164	（目標）166	（目標）171	（目標）176	（目標）180
		（実績）176	（実績）177	（実績）	（実績）	（実績）
圏域内観光拠点（笠岡市及び矢掛町の道の駅）の入込客数【千人】	918	（目標）925	（目標）939	（目標）953	（目標）977	（目標）1,000
		（実績）846	（実績）841	（実績）	（実績）	（実績）
本施設の年間利用者数【百人】	0	（目標）0	（目標）0	（目標）210	（目標）912	（目標）1,027
		（実績）0	（実績）0	（実績）	（実績）	（実績）

	令和11年度 （6年目）	令和12年度 （7年目）
3市2町のUIJターン者数【人】	（目標）618	（目標）639
	（実績）	（実績）
3市2町における健活宣言企業数【社】	（目標）185	（目標）189
	（実績）	（実績）
圏域内観光拠点（笠岡市及び矢掛町の道の駅）の入込客数【千人】	（目標）1,020	（目標）1,039
	（実績）	（実績）
本施設の年間利用者数【百人】	（目標）1,084	（目標）1,141
	（実績）	（実績）

（５）実績値（令和７年度）の評価

設計協議においては、施設整備計画の実現に向け、利用者動線の向上やライフサイクルコストの低減が図られる施設となるよう検討を重ねた。また、交流広場や足湯スペースの配置を見直し、交流人口の拡大が図られる平面計画に変更することで、敷地の有効活用を図ることとした。

交流人口及び定住人口への大きな影響はなく、ＫＰＩ「3市2町のUIJターン者数」及び「圏域内観光拠点（笠岡市及び矢掛町の道の駅）の入込客数」の達成に至っていないものの、令和７年度は事業の本格実施期ではないことから、見直しは行わないものとする。

（６）元気いばら創生戦略会議（外部有識者等）の評価

計画に沿って着実に施設整備を推進するとともに、ＫＰＩの達成に向けて、完成後を見据えた積極的なＰＲ活動に取り組んでいく必要がある。

３．ふるさと井原の未来を創る観光物産振興事業

（１）事業概要

本市の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役となる法人組織設立に向けた支援を行う。取り組むことにより、地域の多様な主体の参画を促し、他の市内産業と結び付けて観光の司令塔として地域全体への新たなヒトとカネの流れの好循環を生み出し、外貨獲得による消費の流出減少につなげる。

（２）事 業 費（国補助率１／２）

６，９９７，４３０円（うち、交付対象事業費 6,997,430 円）

（３）事業実績

〇（仮称）いばらＤＭＯ設立支援事業

①観光セミナーやワークショップの開催

合意形成の為の手法として、まず「ＤＭＯとは何か」を全員で共有する為のセミナーを開催した。また、３つのマネジメントの定義・設計ができる為のワークショップを全２回開催した。



・第１回（説明会、セミナー）R7.7.29

⇒事業の説明や進め方説明、初回はキックオフとして観光動向、ＤＭＯとは何か、地域ＤＭＯの事例紹介などのセミナー開催

・第２回（ワークショップ）R7.9.30

⇒井原市の観光に関する現状分析、調査結果等を説明、井原市の魅力、目指す方向性やビジョン、ターゲットを共有



・第３回（ワークショップ）R7.12.15

⇒地域におけるＤＭＯの役割や機能を共有、地域団体とのすみ分け、事業内容を確認

・第４回（報告会）R8.2.24

⇒業務及びＤＭＯ設立の進捗状況に関する最終報告、今後の取組予定について

②基礎調査及び事例調査

井原ＤＭＯの機能・活動内容を検討するため以下の内容の調査を行った。

・他地域の事例から読み解くＤＭＯの役割調査

⇒井原ＤＭＯの事業内容を検討するため、旅行業の資格を保有し事業を行っているＤＭＯや地域商社機能、道の駅の運営等を行っているＤＭＯなどの他地域のＤＭＯ事例の調査

・井原市及び周辺地域の観光客数や観光消費額等の観光動向調査

⇒井原市の観光の現在地を把握し今後目指す方向性を設定するための井原市や周辺地域の観光動向調査

・地域事業者のヒアリング調査

⇒井原市が抱える課題及び強みの把握、事業者のニーズから見る井原ＤＭＯが担うべき機能について把握するための調査

・地域団体のヒアリング調査

⇒他団体とＤＭＯの役割重複を防ぎ、適切な機能分担を行うための調査

③ＤＭＯの機能・体制等の検討

ヒアリングの結果等から整理した市の魅力・ＤＭＯに求められる機能から８つの要素を抽出し、それらに沿った井原ＤＭＯの活動の基本方針を決定した。

・ビジョン：「星とものづくりが輝く創造のまち・井原」

④井原ＤＭＯの役割と事業内容の決定

ヒアリング結果などから仮説立てを行った井原ＤＭＯの役割、事業内容についてワークショップでの意見や市との協議により、ＤＭＯの役割と事業内容を決定した。

⑤ＤＭＯ設立支援

ＤＭＯ登録を目指す新設法人設立のために必要な準備を行った。

新法人の名称を「一般社団法人　井原ブランドツーリズム」とした。

・基本事項の決定

・定款の作成

・発起人・設立趣意書作成、公証役場での定款認証、法務局への設立登記申請

・各士業と選定

・理事・監事の配置　など

一般社団法人
井原ブランドツーリズム
IBARA BRAND TOURISM

（４）重要業績評価指標（ＫＰＩ）

	事業開始前 令和６年度	令和７年度 （１年目）	令和８年度 （２年目）	令和９年度 （３年目）
新たな法人組織（DMO）が造成したインバウンド向け着地型旅行商品の売上高【千円】	0	（目標）0	（目標）2,500	（目標）7,500
		（実績）0	（実績）	（実績）
観光入込客数【千人】	401	（目標）454	（目標）507	（目標）561
		（実績）396	（実績）	（実績）
星の郷観光案内所の売上高【千円】	6,803	（目標）7,143	（目標）7,500	（目標）7,875
		（実績）8,000	（実績）	（実績）
地域産品の商品開発件数【件】	3	（目標）6	（目標）9	（目標）12
		（実績）6	（実績）	（実績）
WEBサイトに訪れたユーザー数（ユニークユーザー数）【千人】	253	（目標）293	（目標）340	（目標）394
		（実績）273	（実績）	（実績）

（５）実績値（令和７年度）の評価

令和７年度は、ＤＭＯ設立に向けた準備期間であり、本格的な観光事業を実施していないこともあり、ＫＰＩである「観光入込客数」及び「ＷＥＢサイトに訪れたユーザー数（ユニークユーザー数）」は目標値に達していない。

今後は、ＤＭＯによる本格的な事業展開を進める中で、ターゲットを意識した効果的な情報発信や観光コンテンツの充実、関係団体との連携強化などに取り組むことで、交流人口の拡大とＫＰＩの達成を目指す。

（６）元気いばら創生戦略会議（外部有識者等）の評価

ＤＭＯの設立後の本格的な観光事業の展開により、関係人口の拡大やＫＰＩの達成に向けた取組が必要であるため、地域の多様な主体との連携を深め、観光コンテンツの充実を図っていく必要がある。